

今月号のお知らせ内容

①工事の進捗状況等

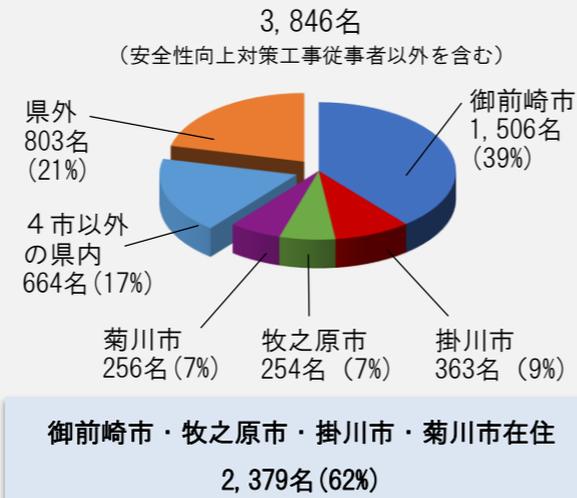
森林火災感知（監視）カメラ
自然現象等監視カメラ

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

③訓練

④審査会合

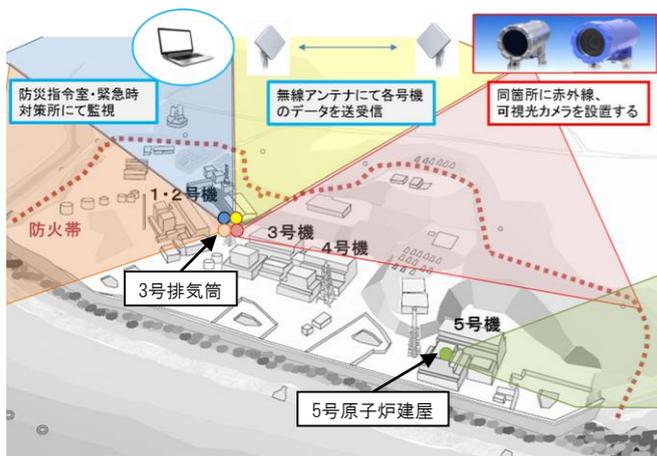
浜岡原子力発電所従事者数（2月1日現在）



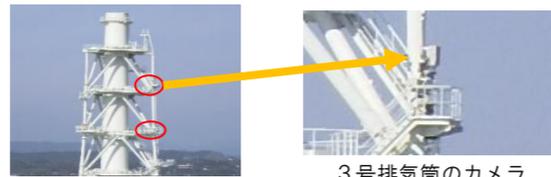
※四捨五入により100%とならない場合があります。

①工事の進捗状況等

外部火災対策【森林火災感知（監視）カメラの設置】

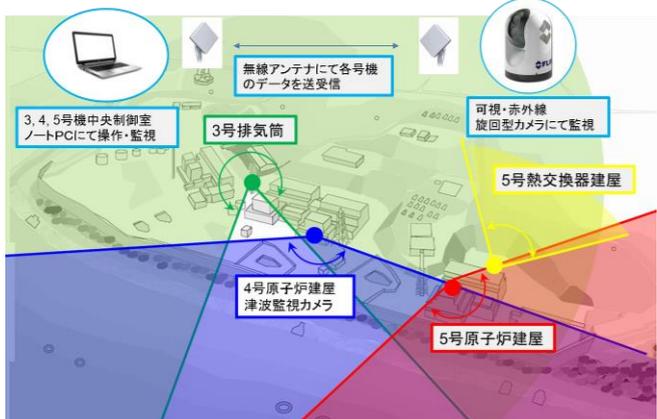


発電所敷地の外側から敷地内への**森林火災の延焼を感知**するために、防火帯外側周辺を一括監視するためのカメラを設置しました。映像監視は、防災指令室で常時行います。緊急時対策所で監視することも可能です。



カメラ設置場所	赤外線カメラ	可視光カメラ
3号排気筒	4台	4台
5号原子炉建屋屋上	1台	1台

自然現象等を把握する設備【自然現象等監視カメラの設置】



地震・津波・竜巻といった自然現象等を把握するために、発電所敷地内を監視するカメラを設置しました。3,4,5号機中央制御室からの監視が可能です。

カメラ設置場所	赤外線カメラ(可視光内蔵型)
3号排気筒	各1台
4号原子炉建屋屋上	
5号原子炉建屋屋上	
5号熱交換器建屋屋上	

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

第73回（2月2日）

点検および確認内容（①工事の進捗状況等でご紹介した内容）

- ・森林火災感知（監視）カメラの設置工事
- ・自然現象等監視カメラの設置工事

静岡県からの講評

中部電力の計画どおりに進んでいることおよび必要な機能が確保できていることを確認した。設備の充実化だけでなく、感知した際には対応がしっかりできるように訓練をおこなってほしい。

2018年1月18日に発生した廃棄物減容処理装置建屋（第1建屋）2階で確認された放射性物質を含む堆積物について、原因究明等をおこない、あらためて報告してほしい。また、図面と現場が相違していたことについても原因究明等をおこない、全体の信頼確保に取り組んでほしい。

御前崎市からの講評

中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。また、高所作業もあることから引き続き安全を確保し、工事を進めてほしい。

次回の点検予定

3月20日



③訓練

外部電源復旧訓練（2月19日～21日）

浜岡原子力発電所で外部電源が喪失した事態を想定し、移動式変圧器を使用した電源復旧訓練を静岡支店が実施しました。

訓練では、77kV送電線から500kV送電線を経由して発電所へ送電するための電路形成を行うとともに、発電所構内に移動用変圧器を設置し、形成した電路経路で変圧器まで加圧できることを確認しました。



500kV・77kV送電線接続訓練の様子（発電所構外の送電鉄塔）
移動用変電設備設置訓練の様子（発電所構内の開閉所付近）



試加圧試験の様子（発電所構内の開閉所付近）

④審査会合

原子力規制委員会による新規基準適合性確認審査を受けています。2月は地震・津波等に関する事項について審査会合が1回おこなわれました。

<4号機の進捗状況>（平成30年2月28日現在）

審査事項	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
審査会合の回数	24回	58回

【平成30年2月9日】

地震・津波等に関する事項（24回目）

審査会合の内容

基準津波策定のうち地震以外の要因（地すべり、火山現象）による津波について初回の説明をおこないました。コメントを踏まえて引き続き審議することとなりました。

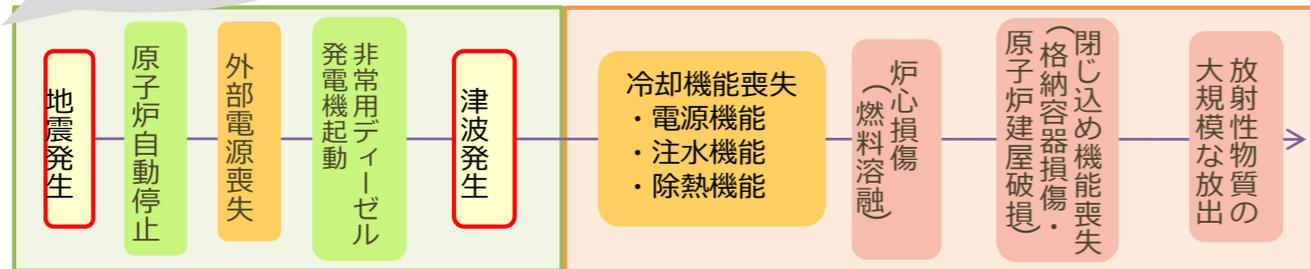
今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力してまいります。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。
また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



サポート 配管

津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、海拔22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。
万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。



防火帯

【主な重大事故等対処設備】冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

恒設

電源機能強化



ガスタービン発電機
高台40m地点から電気を供給

注水機能強化



緊急時淡水貯槽
高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)

除熱機能強化



緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置

可搬

交流電源車



恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備

可搬型注水ポンプ車



可搬型取水ポンプ車



恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

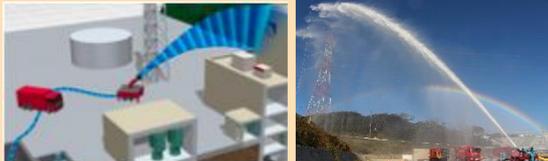
フィルタベント設備

格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。



放水砲設備

原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間 365日体制 **緊急時に特化した幅広い対応力**



役割 (現在14名)
 ・戦略検討
 ・アクセスルート確保
 ・可搬設備の操作等
 現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>
 ・大型自動車免許
 ・けん引免許
 ・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

現場訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年間約700回：平成28年度実績)



シミュレータ訓練

電源車操作訓練

可搬型モニタリングポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。